

吉田古墳(水戸市)

ここが吉田古墳/フェンスで区画されている/南東側から見たところ



説明板と標柱が立つ/南側から見たところ



「史跡 吉田古墳」とある



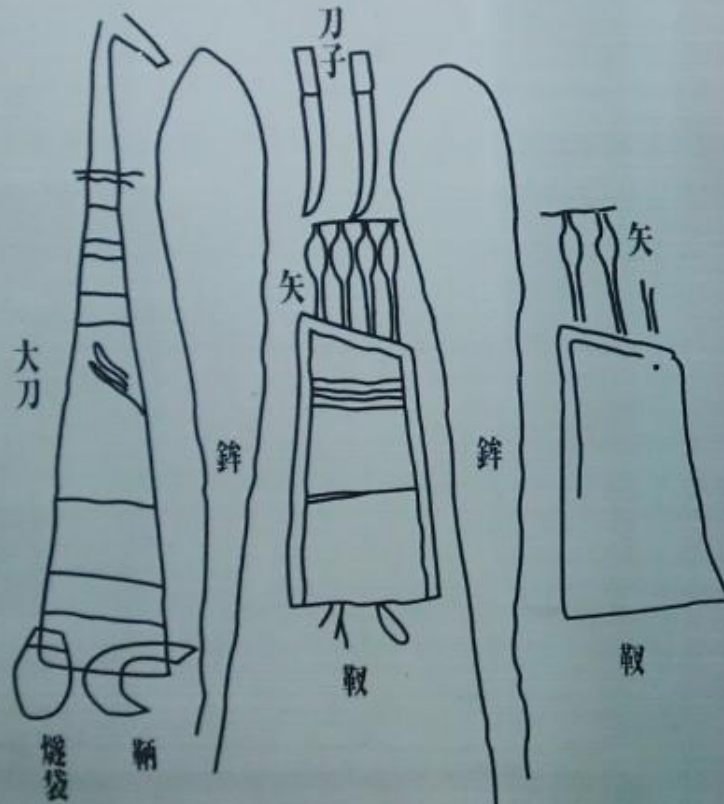
6世紀末以降築造の方墳(八角形墳とも)/主体部は凝灰岩の切石を積み重ねて造った横穴式石室で、奥壁には線刻画が施されているという

国指定文化財
National Cultural Property

史跡 吉田古墳

大正11年3月8日 指定

この古墳は飛鳥時代の6世紀末以降に造られたもので、現在は一辺8メートル高さ1.6メートルほどの方墳にすぎないが、周溝から判断すると当時は一辺30メートルを越えていたことが推定される。内部主体は南に開口する全長約3メートルの凝灰石の板状の石で構築した横穴式石室であり、大正3年4月に発掘され、金環、鉄鏃(やじり)、直刀、勾玉等が発見された。また、石室の奥壁には線刻で鞍、刀子、鉞等武具を主体とした壁画が施されている。このような壁画古墳は、北九州について関東から福島にかけての東海岸に多く発見されているところから、当時の文化の伝播と強い関連が考えられている。



古墳内壁面

Historic Site

Yoshida Kofun

designated March 8, 1922

This Kofun (ancient tomb) was built around the end of the 6th century in the Asuka period. The remains are about 8m square and 1.6m in height. Judging from the ditch around the tomb, it seems to have been over 30m square. There is a cave-style room made of stones 3m in length. When it was excavated in April, 1914, there were golden earrings, iron arrowheads, long swords and magatama (personal ornaments). Also on the back wall of the stone room there was a line-drawing mural of weaponry. As this type of mural was found in ancient tombs in Northern Kyūshū and along the east coast from Kanto to Fukushima, it shows the cultural progression throughout the country.

水戸市教育委員会

吉田古墳

この古墳は、一辺八メートル・高さ一・六メートルくらいの方墳で、
室の奥壁一面に靴、筥、刀子などが線刻されている。日本の装飾古墳と
なかくても重要な地位を占める古墳であり、大正十一年は国指定史跡と
なった。埋葬施設は凝灰岩の切石を積重ねて造った横穴式石室で、外戸
の代表的な古墳である。



これが吉田古墳/南側から見たところ



南西側から見たところ



北西側から見たところ



北側から見たところ/周溝が巡っていたという



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/mito_vosida/

<http://www.city.mito.lg.jp/001373/001374/0/shiteibunkazai/siteibunkazai/yoshidakofun.html>

http://inoues.net/club2/yoshida_kohun.html

<http://open-university.yokappe.net/home/yoshida-kofun>

